

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-322984

(43) 公開日 平成6年(1994)11月22日

(51) Int.Cl.⁵

E 0 4 G 21/02

識別記号

1 0 3 Z

庁内整理番号

7228-2E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平5-114502

(22) 出願日 平成5年(1993)5月17日

(71) 出願人 000166432

戸田建設株式会社

東京都中央区京橋1丁目7番1号

(72) 発明者 篠田 茂夫

神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 戸田

建設株式会社横浜支店内

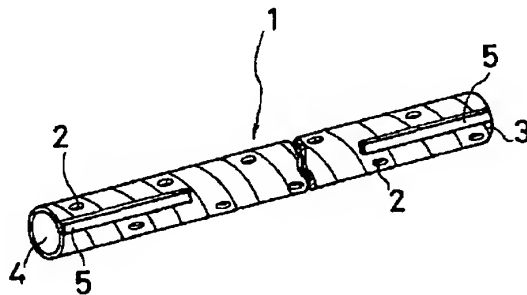
(74) 代理人 弁理士 佐々木 功 (外1名)

(54) 【発明の名称】 コンクリートの打設方法

(57) 【要約】 (修正有)

【目的】 階高の高い柱や壁のコンクリートを打設する場合、コンクリートを分離させずに、かつ手間をかけずに容易に打設することである。

【構成】 周面に流出穴2が螺旋状に開口された打設用パイプ1を柱及び壁の鉄筋及び鉄骨に取り付けこのパイプ1を介してコンクリートを打設する。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 階高が高い柱や壁へのコンクリートの打設方法であって、周面に流出穴が螺旋状に開口された打設用パイプを柱や壁の鉄筋または鉄骨に取り付け、該打設用パイプを介してコンクリートを打設することを特徴とするコンクリートの打設方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明はコンクリートの打設方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 一般に、階高の高い柱や壁へコンクリートを打設する場合は、コンクリートが分離するのを防ぐため2回に分けて打設する方法もあるが、この方法は日数と手間がかかるため、図4に示すように型枠10にコンクリート投入口20を設け、ここから投設する方法が採られている。さらにこの他に、いわゆるサニーホースと呼ばれるホースを使って打設する方法も採られている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、上記のように型枠にコンクリート投入口を設ける方法は、コンクリート投入口をわざわざ設けなければならず、またその補修にも手間がかかるという問題があった。さらに、サニーホースを用いる場合は打設後に抜き取りが必要であり、またコンクリートが詰まることも多いという問題があった。本発明はこのような問題に鑑みてなされたものであり、その目的は、コンクリートを分離させず、かつ手間をかけず容易に打設することである。

【0004】

【課題を解決するための手段】 以上の課題を達成するための本発明のコンクリートの打設方法は、階高が高い柱や壁のコンクリートの打設方法であって、周面に流出穴が螺旋状に開口された打設用パイプを柱や壁の鉄筋または鉄骨に取り付け、該打設用パイプを介してコンクリートを打設することに存する。

【0005】

【作用】 コンクリートの打設前に柱や壁の鉄筋または鉄骨に取り付けた打設用パイプを介してコンクリートを打設すると、打設されたコンクリートがパイプの流出穴から流れ出て打設されるので、階高が高い箇所であってもコンクリートが分離することなく打設され、かつパイプは埋め殺しとなるので手間もかからない。

【0006】

【実施例】 以下、本発明におけるコンクリートの打設方法の一実施例を図面に基いて詳細に説明する。図1はこのコンクリートの打設方法に使用する打設用パイプ1

2

を示したものであり、直径12、5cm、長さ50cm程度のワインディングパイプを使用する。このパイプ1の周面には直径5cmの流出穴2が螺旋状に開口され、上下の開口部3、4には補強板5が溶接されている。この打設用パイプ1は上記のワインディングパイプに限らず、薄い鋼製のパイプ或は合成樹脂製のパイプであってもよい。

【0007】 次に、この打設用パイプを使用したコンクリートの打設方法について説明する。図1の(1)は階高の高い柱の鉄骨6に打設用パイプ1を取り付けた側面図、(2)は同平面図である。このように階高の高い柱にコンクリートを打設する場合、打設用パイプ1を鉄骨柱6のタイプレート6aに番線等で取り付ける。

【0008】 そして、この打設用パイプ1に打設用のホース7を接続してコンクリート8を打設すると、該コンクリート8がパイプ下部の開口部4及び流出穴2から流れ出て型枠内に打設される。そして、この打設用パイプ1の上部付近までコンクリート8が打設されたら、打設用のホース7をパイプ1から引き抜いて打設することにより、打設用パイプ1が埋め殺された状態で階高の高い柱の打設が行える。

【0009】 この打設用パイプ1は柱や壁の大きさに応じて複数本設置することができ、またその長さも柱や壁の高さに応じて適宜変えることができる。またパイプの直径及び流出穴の直径も上記のような条件によって任意に設定することができる。

【0010】

【発明の効果】 階高の高い柱等にコンクリートを打設する場合、コンクリートがパイプを通して分離せずに下部まで到達するためジャンカや豆板のない密実なコンクリートが打設できる。

【0011】 パイプを埋め殺しの状態でコンクリートの打設ができるので、補修などの費用や手間もかからず、経済的かつ容易にコンクリートの打設ができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 打設用パイプの斜視図である。

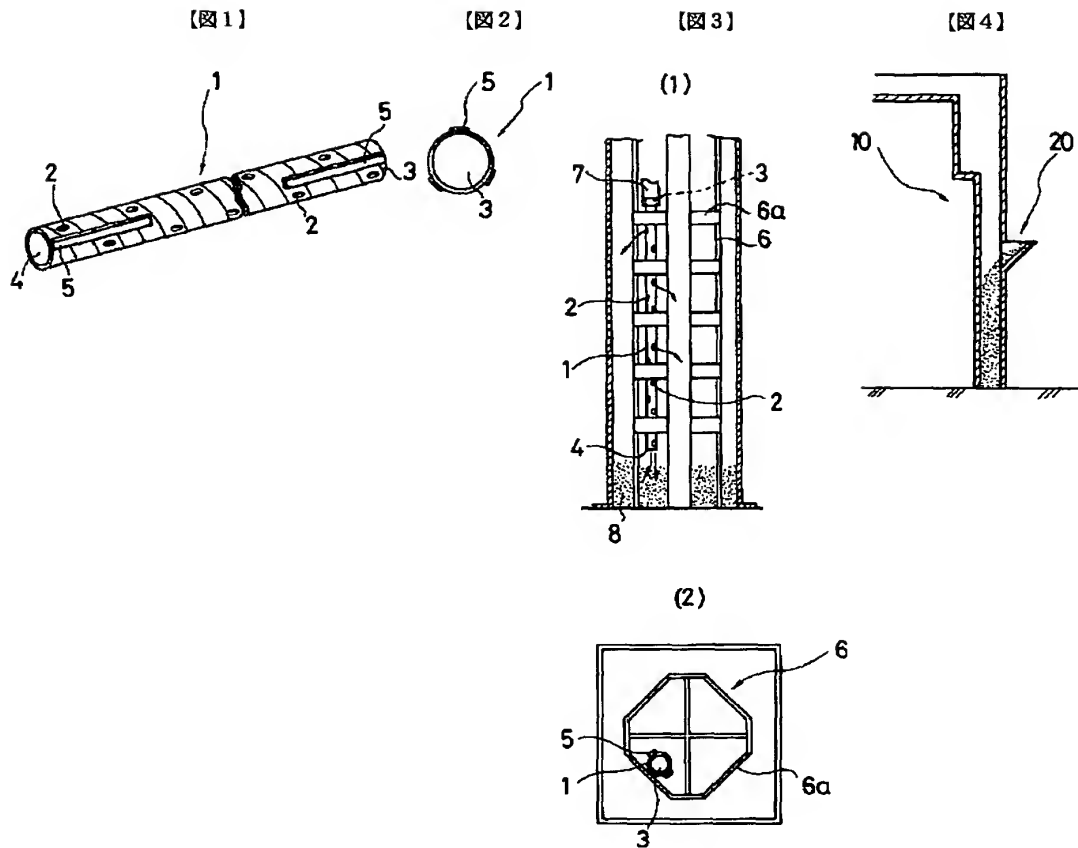
【図2】 同平面図である。

【図3】 (1)は打設用パイプを柱の鉄骨に取り付けた側面図、(2)は同平面図である。

【図4】 従来の打設方法を示す断面図である。

【符号の説明】

- 1 打設用パイプ
- 2 流出穴
- 3、4 開口部
- 4 支持杭
- 5 補強板



【手続補正書】

【提出日】平成5年5月28日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0006

【補正方法】変更

【補正内容】

【0006】

【実施例】以下、本発明におけるコンクリートの打設方法の一実施例を図面に基いて詳細に説明する。図1はこのコンクリートの打設方法に使用する打設用パイプ1を示したものであり、直径12.5cm、階高又は打設長さ50cm程度のワインディングパイプを使用する。このパイプ1の周面には直径5cmの流出穴2が螺旋状に開口され、上下の開口部3、4には補強板5が溶接さ

れている。この打設用パイプ1は上記のワインディングパイプに限らず、薄い鋼製のパイプ或は合成樹脂製のパイプであってもよい。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0007

【補正方法】 変更

【補正内容】

【0007】次に、この打設用パイプを使用したコンクリートの打設方法について説明する。図3の(1)は階高の高い柱の鉄骨6に打設用パイプ1を取り付けた側面図、(2)は同平面図である。このように階高の高い柱にコンクリートを打設する場合、打設用パイプ1を鉄骨柱6のタイプレート6aに番線等で取り付ける。

【手続補正】

【提出日】平成5年11月12日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正内容】

【0006】

【実施例】以下、本発明におけるコンクリートの打設方法の一実施例を図面に基づいて詳細に説明する。図1は

このコンクリートの打設方法に使用する打設用パイプ1を示したものであり、直径12.5cm、階高又は打設長さ5m程度のワインディングパイプを使用する。このパイプ1の周面には直径5cmの流出穴2が螺旋状に開口され、上下の開口部3、4には補強板5が溶接されている。この打設用パイプ1は上記のワインディングパイプに限らず、薄い鋼製のパイプ或は合成樹脂製のパイプであってもよい。